

絆

学校便り1月号

きずな

日置市立生橋中

令和4年1月26日



子どもたちの学ぶ意欲とこれからの学び

校長 井之上 良一

新年明けましておめでとうございます。保護者や地域の皆様方には、日頃から学校の教育活動に対しまして限りない御支援、御協力を賜り心から感謝申し上げます。本年も学校の教育活動やPTA活動、学校運営協議会等への御協力を何とぞよろしくお願いいたします。

さて、近年、日本の子どもたちの学ぶ意欲が低下してきているのではないかと、という指摘が多くなされています。もちろん反論の向きもあると思いますが、例えば、15年ほど前に実施された国際数学・理科教育動向調査（平成19年実施の通称「TIMSS（ティムズ）」）。対象：小学校4年生・中学校2年生）では、我が国は参加48か国の中で、宿題をする時間はほぼ最短で、テレビ等の視聴時間は最長という結果が出ました。また、同調査において、数学（算数）や理科の勉強が楽しいと感じている生徒の割合が国際平均（全体）を大きく下回っていることも明らかにされました。

では最近はどうかという、令和元年に実施された同調査においても、小・中ともに数学（算数）や理科の勉強が楽しいと感じている生徒の割合は、以前に比べれば増加しているものの、やはり国際平均を下回るという結果が出ています。（ただし、小学校理科だけは国際平均を6ポイント上回っています。）

学ぶ意欲が学力の大切な構成要素であり、しかも学習の成果を左右するとともに将来的な学びにも影響を与えるものであることを考えると、こうした調査結果は決して等閑視できないものだと思います。

他方、子どもたちの学ぶ意欲について考える一つの指標となる「不登校児童生徒の数」は、近年、増加傾向が続いています。ちなみに、文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中学校における不登校児童生徒数は8年連続で増加しています。直近の令和2年度の不登校児童生徒の在籍している割合は、小学校で1.0%、中学校で4.0%という深刻な結果になっており、中学校については40人が在籍している学級の場合、平均すると約2人が不登校の状況にあるという計算になります。

子どもたちの学ぶ意欲をいかにして喚起していくかは、今や教育に携わる者だけではなく社会全体で共有すべき課題になっているといっても過言ではないと思います。このような状況を踏まえて、熊本大学教育学部准教授の苫野一徳先生は、『「学校」をつくり直す』という著書の中で次のような指摘をしています。

学校に通う子どもたちが、どういうわけか幸せそうじゃない・・・（中略）・・・理由はもちろん、人それぞれです。いじめ、体罰、過度の管理・統率、厳しすぎる校則、空気を読み合う人間関係、落ちこぼれ・・・等々。でもこれらすべての問題の根底には、ある共通の本質がある・・・（中略）・・・公教育が始まって、約150年。学校教育はこれまで、ずっと変わらず、基本的に次のようなシステムによって運営されてきました。すなわち、「みんなで同じことを、同じペースで、同質性の高い学級の中で、教科ごとの出来合いの答えを、子どもたちに一斉に勉強させる」というシステムです。ところがこのシステムが、今いたるところで限界を迎えているのです。



このような主張を目にすると、改めて問題の根の深さを思わずにはおられません。現実には、授業に取り残されたまま「自己肯定感」を失っていく子どもたちや、テストで一定の点数は取れるけれども学ぶ意義や面白さを感じられていない子どもたちは、私たちの目の前にも存在しています。（日本の子どもたちは、諸外国に比べて圧倒的に「自己肯定感」が低いということが国際比較調査でも明らかにされています。）

しかし、一方で、このような現実立ち向かうべく改革に着手する学校も見られるようになってきています。その一つである長野県にある「大日向（おおひなた）小学校」では、ヨーロッパ発祥の「イエナプラン教育」（異学年の子どもが所属する学級を組織し、個別の教科等の学習と教科横断型の総合学習・協働学習を組み合わせる学びカリキュラムを実践する教育）を取り入れ、いわば「未来の教室」を提供しています（基本的な時間割の枠組みは「ワールドオリエンテーション」と「ブロックアワー」から構成。詳しくは「大日向小学校ホームページ」参照）。この学校がある佐久穂町では、実践を聞きつけ移住する人が増え、今、「教育移住」が話題になっているそうです。

大日向小学校のような理想的な実践は、特別な学校でしかできないのかというと、決してそうではないようです。何人かの識者が提起していますが、現行の学習指導要領の枠内でも十分に試みる余地はあるようです。その鍵を握っているのは「総合的な学習の時間」です。この時間の内容を探索的な学習（自ら設定した問題を調査・研究するタイプの学習）やプロジェクト学習（目標達成に向けて個別や協働で取り組み、課題を追求する力や自己表現力などを養う学習）へと転換を図ることにより、子どもたちは手間のかかる、答えのない「問い」に向き合い、学ぶ喜びや学ぶ意義に触れていくことが可能となるとのことです。こうした「問い」を追求したり、探索したりする過程の中では、タブレット等の情報端末を駆使することはもちろん、協働の学習に加えて地域の人材や職業人、専門家などの協力や参加も不可欠となっていきます。その結果、必然的に現実社会を生きている人々との出会いや交流が生まれ、学習が現実感（リアリティー）を伴ったものになる可能性があります。

学校でのこれまでの学びは、どちらかというと「繰り返し」や「苦行」、「つまらない」といった経験で終わりがちでしたが、当事者意識をもって追求した子どもたちは、真正の学びを経験し、将来にわたって創造的な学びや問題解決に取り組む姿勢を育てていくことが可能になるというわけです。

残念ながら、現時点で本校の教育課程（教育計画）において「総合的な学習の時間」はこのような方向性を十分に志向しているわけではありません。しかしながら、遠からずそうした方向に軸足を移していく必要があると考えています。

3学期始業式 1/11

令和3年度の3学期が始まりました。始業式では3人の代表生徒が「冬休みの反省と3学期の目標」を発表しました。



17日間という例年よりも長い休みになりましたが、規則正しい生活を送り学習も充実した様子が分かりました。3学期の目標は上学年に向けての準備をしっかりしていこうという決意が感じられました。特に3年生の代表は、入学試験に向けての目標を述べて、悔いの無いように努力をしていこうとする気持ちがよく伝わってきました。

コロナウイルス感染症対応で、校歌斉唱はできませんでしたが、新学期のスタートにふさわしい立派な始業式になりました。

2年生高校訪問 12/17

中学校卒業後の進路先である高等学校についての理解を更に深めるために、2年生が、城西高等学校、鹿児島情報高等学校へ高校訪問を行いました。



それぞれの高等学校について、事前に調べながら質問を作成し、本番に臨みました。どの高等学校も施設や教育内容などが素晴らしく、子どもたちは貴重な体験ができたようです。以下は子どもたちの感想です。

- ・校舎もとてもきれいだし、すれ違う高校生がみんなあいさつをしてくれてとてもすごいと思った。一人1台ipadもびっくりした。
- ・エレベーターがあったり、雰囲気がホテルのようにおしゃれで驚いた。(中略)今日の高校訪問を通してもっと知りたいと思った。
- ・(前略)あと1年で高校受験なので、高校のことをしっかり知って、勉強も頑張っていきたい。

新春書き初め大会 1/11



始業式の後に、全校生徒で書き初めを行いました。1年生は「日光」、2年生は「平和の祈り」、3年生は「不屈の精神」を行書で挑戦しました。どの生徒も真剣な表情で、集中して取り組んでおり、立派な作品を仕上げていました。令和4年初めての授業でしたが、充実した「授業初め」になりました。

ありがとうございます 今年も

様から立派なしめ縄をいただきました。心から感謝申し上げます。



3年生を激励する会 1/14

高校受験を控えた3年生に向けて、生徒会が中心となり1、2年生で「3年生を激励する会」を企画・実施しました。

前日までに、3年生一人一人に送るメッセージを作成し、画用紙に貼ったり、激励の言葉を考えたりしていました。

夕の歌の時間を使って開催し、3年生それぞれから言葉をもらった後、1年生がエールを送りました。

私立高校入試は1月15日から27日まで続き、公立高校学力選抜は3月3日、4日に実施されます。残り少なくなりましたが、ベストを尽くせるよう体調には十分注意してください。後輩の声援を受けた3年生の皆さん、健闘を祈ります。



日	曜	2月の主な行事予定
1	火	おひさまあいさつの日
4	金	巡回図書(ひよし丸) 漢字検定
7	月	3年生学年末テスト(～9日)
9	水	中学校入学説明会
10	木	授業参観・2年生譲り葉の会 子育て講座・学年末PTA
11	金	(祝)建国記念の日
18	金	テスト前部活動停止(～25日) 巡回図書(ひよし丸)
22	火	1・2年生学年末テスト(～25日)
23	水	(祝)天皇誕生日